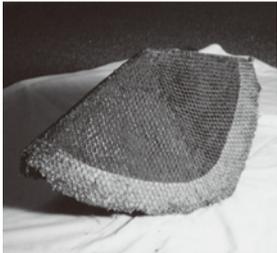


柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

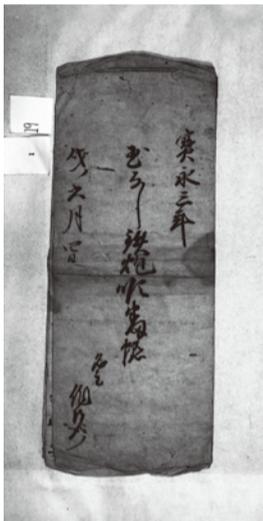
谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

① 蓑笠

江川太郎左衛門が農兵を設置した際に、西洋銃の使用を前提に考案した笠。陣笠とフランス軍の帽子を折衷した形をしている。農兵隊頭取が使用したものと考えられる。(画像提供：西東京市教育部社会教育課)



② 村野家住宅に残る床柱の傷
一揆勢が村野七次郎家を農具で打ち壊した際についた傷。現在に至るまで修繕せずに残しているという事実、村野家歴代当主の一揆勢へのおもいを汲み取ることができる。(画像提供：顧想園サポーター・郡司恒夫氏)



③ 「玉なし鉄砲順番帳」

宝永二(1705)年に将軍・徳川綱吉による一連の生類保護政策の一環で、下保谷村が犬を預かった際、狼除けのために鉄砲が支給された。本史料は、その翌年に作成された使用記録。表題の通り鉄砲には弾は込められず、あくまでも動物除けの「農具」として用いられた。(画像提供：西東京市中央図書館地域・行政資料室)

特別紙面講座

ふるさとむかし探訪

第三回

それは革命か暴動か、それとも：
— 武州世直し一揆と幕末の農民たち —

行田 健晃

これまで見たように、江戸時代の田無・保谷の人々は、さまざまな条件や社会の仕組みに支えられ、全体として安定した生活を送っていました。しかし、この仕組みは完全なものではなく、幕末に限り限界を迎えます。最終回の今回は、その象徴ともいえる大事件—幕末にこの地域を巻き込んで起きた一揆についてお話ししたいと思います。

「勢焰」は秩父の山間より

武州世直し一揆(武州一揆)一慶応二(一八六六)年六月に巻き起こったこの一揆は、「世直し」を叫ぶ秩父郡上名栗村(現飯能市)の貧民たちによる飯能村(同)での打ちこわしに始まり、鎮庄までの七日間で南は多摩川流域、北は上野国(現群馬県)南部まで広がりました。打ちこわされた家屋は二〇〇カ村で五

みなさんの中には、農民たちが集団で権力者のもとに押し寄せる一揆の姿に、「革命」のよ

訴願運動である以上は、武器ではなく身分を象徴する農具を持つこと、富裕な農民を狙う打ちこわしの際は殺傷や盗みを禁じるなど、一定の作法がありました。武州一揆でも、「世直し」として掲げられた要求は米の安売り、借金減免、米・金の施しなどの生活保障に関する事項であり、彼らが持っている道具は多くは鎌や斧、鋏などの農具でした。

治安の悪化と一揆の変質

それには、当時の社会状況が関係しています。農民たちの間で貧富の差が大きくなってきた

一八世紀末から、江戸や関東では村を離れ、博打を生業とする無法者による治安の乱れが大きな社会問題となりました。これと歩調を合わせるように、一九世紀頃から一揆の中に作法を破って放火や窃盗をするものや、領主ではなく裕福な農民を主なターゲットにするものが現れたのです。そして幕末、開国によって物資が輸出されると物価は高騰し、貧しい人々はさらに生活が苦しくなって多摩の治安は悪化しました。

武装する農民、鉄砲の姿

「見かけ次第打ち殺すべし」

この時の戦いについて、江川代官所の記録に注目すべき記述があります。それによれば、この戦いに本場に積極的に参加した農兵は一部であり、残りの人々はその光景を遠巻きに見ているだけだった、ということです。ここからは、代官の命令に従い、一揆勢を容赦しない覚悟と、自らと同じ農民たちを手にかけることへのためらいの間で揺れる農兵たちの姿をうかがうことができます。また、戦場となった村野家では、亡くなった一揆勢八人を祀る祠が建てられ、今でも毎朝、水を供えています。それは「水を飲みたい」と言いながら亡くなっていった一揆勢への憐れみです。

新たな時代へ

武州一揆の展開は、貧民たちがこれほどの行動を起こさざるを得なかった点、富裕な農民が本来救うべき存在である貧民と武力衝突を起した点において、江戸時代の社会の仕組みの破綻を象徴するものでした。この破綻の感覚は、直接の標的にはならずとも、同じように一揆の恐怖に晒された保谷地域の人々にも共有されたに違いありません。それを表すかのように、一揆の翌年、江戸時代は終わりを告げました。そして、田無・保谷の人々は、後悔となお続く混乱の中で、少しずつ新たな時代へと踏み出していきました。

利用者懇談会にご参加ください

公民館の事業や利用について意見交換する懇談会を行います。柳沢・芝久保・谷戸・ひばりが丘・保谷駅前の5館は、利用区分の変更についてご意見をうかがう予定です。限られた定員のため、事前申し込み制とします。参加を希望する方は、参加する公民館へ申し込んでください。

【申】8月3日(月)9時から電話で参加する公民館へ

館名	月日	各回の定員 (申込順)	時間		
			第1回	第2回	第3回
柳沢	8月22日(土)	35	10時~11時半	13時15分~14時45分	15時半~17時
保谷駅前	8月22日(土)	25	10時~11時半	14時~15時半	
芝久保	8月29日(土)	20	10時~11時半	14時~15時半	
谷戸	8月29日(土)	30	10時~11時半	14時~15時半	
ひばりが丘	8月29日(土)	30	10時~11時半	14時~15時半	
田無	9月5日(土)	25	10時~11時半	13時15分~14時45分	15時半~17時

10月号のお題 「実」です

おたのしみ川柳 今月のお題「盛」

・盛りはよし味はいまいら馴染み店 上田政和
 ・我が庭はコロナよいずこ花盛り 小林和子
 ・日盛りにノスタルジーの蝉の声 岡宮直利

編集室では、みなさまの投稿をお待ちしています。氏名・住所・電話番号を記入の上、お近くの公民館に郵送、メール、持参でお寄せください。

締切 8月25日(火)

印刷機利用時の実費負担額を変更します

公民館には、自主グループや市民団体が原紙代等の実費を負担して利用できる印刷機があります。

この度、公民館では実費負担額の見直しを行い、9月から、製版1回につき35円を40円に変更させていただくことになりました。ご理解、ご協力をお願いします。

なお、9月から柳沢・芝久保・谷戸公民館の印刷機に、コインペンダー(料金の自動課金・徴収を行う機械)を設置します。これにより、この3館では、夜間や土・日曜日、祝日に印刷機を利用した場合、料金を支払うために平日に改めて来館していただく必要がなくなります。

君と生きる

休校の下で猫の足あととは 岸田久恵

(NPO法人猫の足あと代表・西東京わいわいネット代表)

2月末、突然の休校発表に、「猫の足あと」で行っている「小学生宿題クラブ」と「中学生勉強会」も中止せざるを得なくなりました。3月は、毎年やっていた中学3年生の合格祝いの会だけは開いて激励したが、この子たちも高校生活をスタートするまではかなり待たされることになった。

「猫の足あと」は、2011年に中学3年生対象の無料学習支援から始めた団体である。最初は自宅の一室で学生だった娘や息子などが勉強を教え、私が食事を提供する形で5年間進めてきた。2016年からは、猫の足あとハウスに場を変えて、小・中学生への学習と食、居場所の提供、若者への住居支援を行っている。

活動の自粛を余儀なくされている中でも、「給食がない夏休み」に瘦せてしまった子どもが心配だ。4、5月は、月・木曜日のお昼に学習課題と食材、お弁当の配布をして、子どもたちやシングル家庭の様子を気にかけてきた。学校に行かない子が久しぶりに会話して嬉しそうだったり、非正規で働く母親が仕事がなく食材提供が助かったと喜んでくれたりしたことで、やってよかったと感じることができた。

「西東京わいわいネット」も、公民館が休館したことで、3月から6月までの「わいわいクッキング」を開催することができなかつた。そこで、子どもへの食に思いを馳せてフードパントリーを3回実現してきた。7月にはようやく公民館で子ども食堂の形で復活することになった。「猫の足あと」は、6月になってようやく宿題クラブと勉強会が平常に近い状態に戻ってきている。小学生は人数が少ないが密でないのいい。中学生はそれぞれの勉強会に生徒が5、7人、先生3、4人参加するので食事の仕方や消毒など感染対策をしながらだが、人が繋がるうれしさを改めて実感している。コロナ禍で支援の輪をもっともって広げていきたい。

芝久保 夏休み子ども企画

パントマイム公演 「チカパンのパントマイム！」

心の目をひらけば…見えないものが見えてくる!? ふしぎで楽しいパントマイムの世界を体験しよう!

【時】8月8日(土)11時~12時
 【場】芝久保公民館
 【対】市内在住の小・中学生
 【定】20人(申込順)
 【講】チカパン(パントマイムアーティスト、パントマイムプラネット主宰)
 【申】8月3日(月)9時から電話で芝久保公民館へ



公民館運営審議会

傍聴をご希望の方は、事前に申し込んでください。

【時】8月19日(水)18時半~
 【場】柳沢公民館
 【内】事業計画・報告について
 【申】電話で柳沢公民館へ

季節の花 オシロイバナ 何時頃に咲く?

真夏になると一夜花が増えてきます。カラスウリ、マツヨイグサ、オシロイバナなどです。何時頃咲いて何時頃閉じるのかが、お子さんたちと観察してはいかがでしょうか。オシロイバナは別名ユウゲショウ(夕化粧)のほか、英語ではFour o'clockと呼ばれています。本当に夕方4時頃に咲くのでしょうか。花の色は、赤、白、橙、黄など多彩で、花の形がユニークです。筒状の花は、花弁でなく萼が変化したもので、皺のある黒い果実を割ると真っ白い粉状の胚乳が詰まっています。これを白粉代わりに用いたことからその名がつけました。南アメリカ原産で、江戸初期に鑑賞用として渡来しました。



文・写真 大森拓郎(新町在住)

谷戸

農業を知る講座

種まきから収穫まで農作業を体験しつつ、都市農業の可能性を講師と一緒に考えます。

【時】8月25日~12月22日 火曜日
 10時~12時(9月は8時半~10時半) 全17回
 ※天候、生育状況によりプログラムの変更あり
 【場】谷戸公民館、住吉町一丁目の畑
 【対】初めて参加する市内在住者優先
 【定】32人(申込多数の場合は抽選)
 【内】ニンジン、キャベツ、ブロッコリーなど10種類程度の野菜作りと講義
 【講】保谷隆司(市内農家)、小野紀之(環境カウンセラー)
 【費】1,000円(種苗代など)
 【申】8月14日(金)17時までに電話で谷戸公民館へ



サークルから 催し物案内

田無駅南口をにぎわい広場に!!
市議と語り合うこれまち懇談会
まちづくりを考える西東京市民の会
 8月8日(土)/14時~16時半/
 田無公民館/定員25人(申込順)/
 要申込・8月2日(日)から
朗読会「茨木のり子の詩と思索を巡る旅~夏の集い~」

茨木のり子の家を残したい会
 8月10日(月・祝)・15日(土)/14時~16時半/
 柳沢公民館/定員30人(申込順)/
 要申込・8月2日(日)から電話で
アジア太平洋戦争と日本国憲法~戦争の歴史と憲法の講演会~

西東京風の会
 8月30日(日)/14時~16時半/
 田無公民館/定員25人(申込順)/
 講師:中村孝文(武蔵野大学教授)/
 資料代300円/要申込・8月2日(日)から電話で

サークルから 会員募集

田無英会話サークル(初級)
 第1・3土曜日/18時15分~20時15分/
 下宿地区会館/入会金2,000円・月額2,500円

※金額の記載がないものは無料です。

10月1日号の原稿締め切りは、8月20日(木)です。